

—毎年5月9日は「呼吸の日」—

長引く咳や痰(たん)に要注意！ 中高年女性に増加する「肺 NTM 症」 調査結果でわかった認知率の低さと、あまり知られていない水回りに潜むリスク

インスメッド®合同会社(以下「インスメッド」、本社:東京都千代田区)は、肺非結核性抗酸菌症(以下、「肺 NTM 症」)を含む感染症および呼吸器疾患に関する一般の意識や行動を把握することを目的に、現在、もしくは過去に咳、もしくは痰(たん)の症状のある(あった)30代から70代の男女1,092名を対象に2023年12月7日(木)～2023年12月10日(日)の期間、オンライン形式のアンケートを実施しました。

その結果、近年、日本において罹患者数/死亡者数が増加傾向にあり、肺結核のそれらをしのぐといわれる肺 NTM 症について、「知っている」が9.3%、「聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が22.3%と、認知率が大変低いことがわかりました。また、その感染源の要因と考えられている「水(水道水など)」が35.3%となっており、約3割の人にしか認識されていないことがわかりました。

<肺 NTM 症について>

肺 NTM 症とは非結核性抗酸菌(Nontuberculous Mycobacteria、以下「NTM」)という細菌が肺に感染することにより発症する感染症です¹。2014年に日本で実施された調査において、人口10万人あたりの罹患者率は2007年の全国調査と比較して約2.6倍増加し、現在では肺結核をしのぐ罹患者数となっています^{2,3}。また特に日本を含むアジアでは、肺 NTM 症の人口比が、米国や欧州と比較して多いとされています^{4,5}。

肺 NTM 症の主な症状として、咳嗽(がいそう)、喀痰(かくたん)、血痰(けったん)、倦怠感、体重減少などが挙げられますが、症状の強さや病気の経過は患者さんによって様々です。厚生労働省の人口動態調査(2022年)では、国内で肺 NTM 症による死亡者数が年間1,158人であったことが報告されており⁶、罹患者数、死亡者数ともに増加の一途をたどっている深刻な疾患です。

<人から人へ感染しない>

肺 NTM 症と肺結核との大きな違いは、人から人へ感染しないといわれていることです。NTMは、水などの自然環境や、台所や風呂場などの水回りの生活環境に常在菌として生息しており、それらを吸い込むことで感染します。

	肺結核	肺 NTM 症
感染経路	人から人へ感染します	人から人へは感染しないといわれています 主に水などの自然環境、水回りなどの生活環境にいる菌を 吸い込むことで感染します
症状の 進み方	急激に悪化することがあります	多くはゆるやかに進行しますが、 患者さんによってまちまちです

しかし、今回行った調査では、その感染源の要因と考えられている「水(水道水など)」(35.3%)が、約3割の人にしか認識されていないことがわかりました。

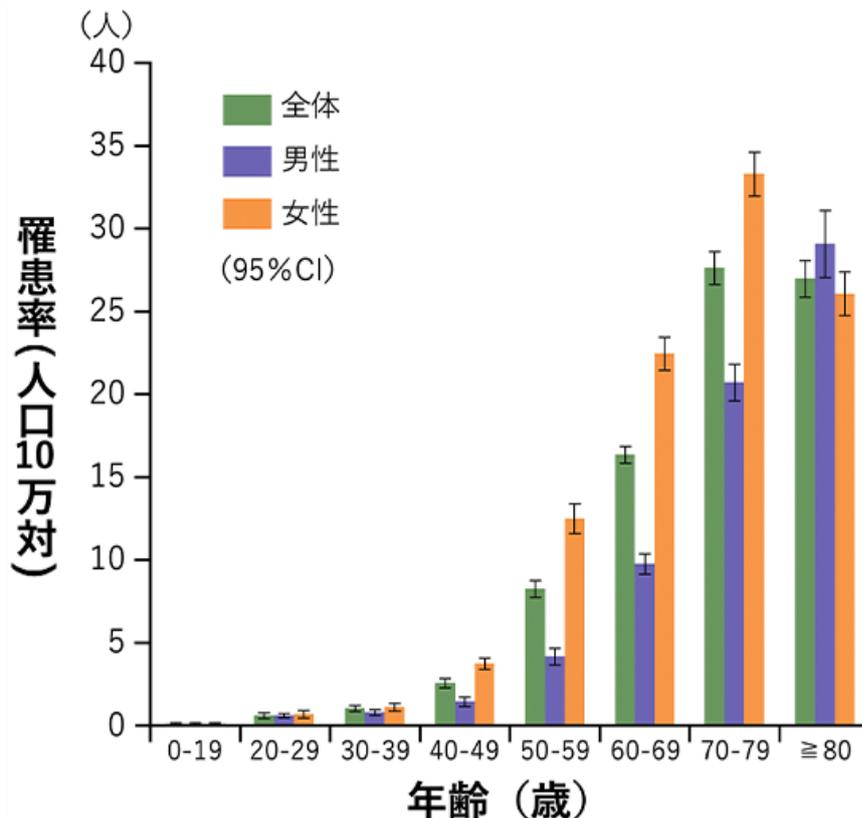
<初期は無症状のことも多い>

肺 NTM 症の初期は無症状のことも多く、長引く咳や疲れやすいなどの症状が繰り返し起こるようになり、病気が進んでくると、咳や痰の症状が強くなり、血痰や喀血、体重減少などがみられることもあります。



<中高年のやせ型の女性に多い>

肺 NTM 症を長年研究し、治療に携わっている慶應義塾大学医学部感染症学教室の長谷川直樹教授は、「はっきりとした原因はわかっていますが、中高年のやせ型の女性に多いといわれています。肺 NTM 症と診断された人の割合(人口 10 万対)⁷をみると、男性よりも女性の方が高く、40 歳以降に急激に増加がみられます。そのほか免疫を抑える治療をしていたり、免疫が低下する病気の人では肺 NTM 症に感染しやすいといわれています」と話します。



<健康診断で見つかることも多い>

初期の肺 NTM 症は、無症状のことが多いため、健康診断やほかの病気の検査がきっかけとなって、偶然にみつかることが多く、無症状の場合は、そのまま放置してしまう人も少なくありません。肺 NTM 症の疑いがあるといわれたら、早めに呼吸器専門医を受診し、どのような状態なのか、しっかりと診断してもらうことが大切です。

調査では、咳や痰の症状があっても、「病院に行くほどではないと思っている」人が圧倒的に多い(79.9%)ことがわかりました。

<感染していても症状が出ない場合がある>

「感染した人すべてに自覚症状が出たり、肺の構造破壊が起こったりするわけではありません。抗体が陽性と診断されても画像検査では異常はみられず、喀痰検査で痰から全く菌が検出されない、症状も何もない方がたくさんいます。NTM は自然環境や生活環境のどこにでもいる菌なので、感染する人はいますが、今のところ、感染した人がどのくらいの割合で発症するのかはわかりません」(長谷川教授)

<日常の生活環境を見直す>

肺 NTM 症の原因となる NTM は、わたしたちの身の回りに広く生息しています。その菌を含んだ水しぶきを吸い込み、菌が繰り返し肺の中に入ってくることで感染が起こります。そのため、日常生活を送るうえで、NTM をなるべく吸い込まないようにすることが重要になります。「NTM は消毒薬にも強いという性質があり、生活環境から排除することは難しい菌です。しかし浴室や台所などでは、日頃からなるべく清潔にすることを心掛け、排水溝だけでなく、シャワーヘッドやホースのぬめりを取り除き、よく乾燥させる、また掃除の際はマスクを着用することも重要です」(長谷川教授)

肺 NTM 症の更なる情報は[肺 NTM 症講座](#)をご確認ください。

¹ 佐々木結花 編. 結核・非結核性抗酸菌症を日常診療で診る. 羊土社; 2017.

² Namkoong H, et al. Emerg Infect Dis. 2016;22(6): 1116-1117.

³ 日本医療研究開発機構. プレスリリース:呼吸器感染症を引き起こす肺非結核性抗酸菌症の国内患者数が7年前より2.6倍に増加—肺結核に匹敵する罹患率— https://www.amed.go.jp/news/release_20160607-02.html (last accessed 2022.02.25)

⁴ Adapted with permission of the American Thoracic Society. Copyright © 2020 American Thoracic Society.

⁵ Adjemian J, et al. Am J Respir Crit Care Med. 2012; 185(8): 881-886.

* The American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine is an official journal of the American Thoracic Society

⁶ 政府統計の総合窓口 e-Stat. 人口動態調査 / 人口動態統計 確定数 死亡(2022年). https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450011&tstat=000001028897&cycle=7&year=20220&month=0&tclass1=000001053058&tclass2=00001053061&tclass3=000001053065&stat_infid=000040098339&result_back=1&tclass4val=0 (last accessed 2024.3.21)

⁷ Izumi K, et al. Ann Am Thorac Soc. 2019; 16(3): 341-347.

— 調査結果のまとめ —

- 感染症・呼吸器疾患の中でも非常に低い「肺 NTM 症」の認知率 1 割 (9.3%)
- 感染症の“感染源”としてあまり認識されていない要因:「水(水道水など)」(35.3%)
- 感染症予防のために意識して行っていることの 7 位:「水回りの掃除」(27.2%)
- 咳や痰の症状があるのに医療機関を未受診の方に聞いたその理由の 8 割 (79.9%) が「病院に行くほどではないと思っている」

本調査の概要および結果の詳細は以下をご確認ください。

【調査概要】

調査期間: 2023 年 12 月 7 日(木)~2023 年 12 月 10 日(日)

調査手法: インターネット調査

対象地域: 47 都道府県

調査目的: 肺 NTM 症を含む感染症および呼吸器疾患に対する意識、症状があることで発生する困りごと、現状の治療への満足度などに関する実態把握および啓発のため

調査対象者: 現在および過去に咳もしくは痰の症状のある(あった)30-70 代
(男女 546 名ずつ、計 1,092 名)

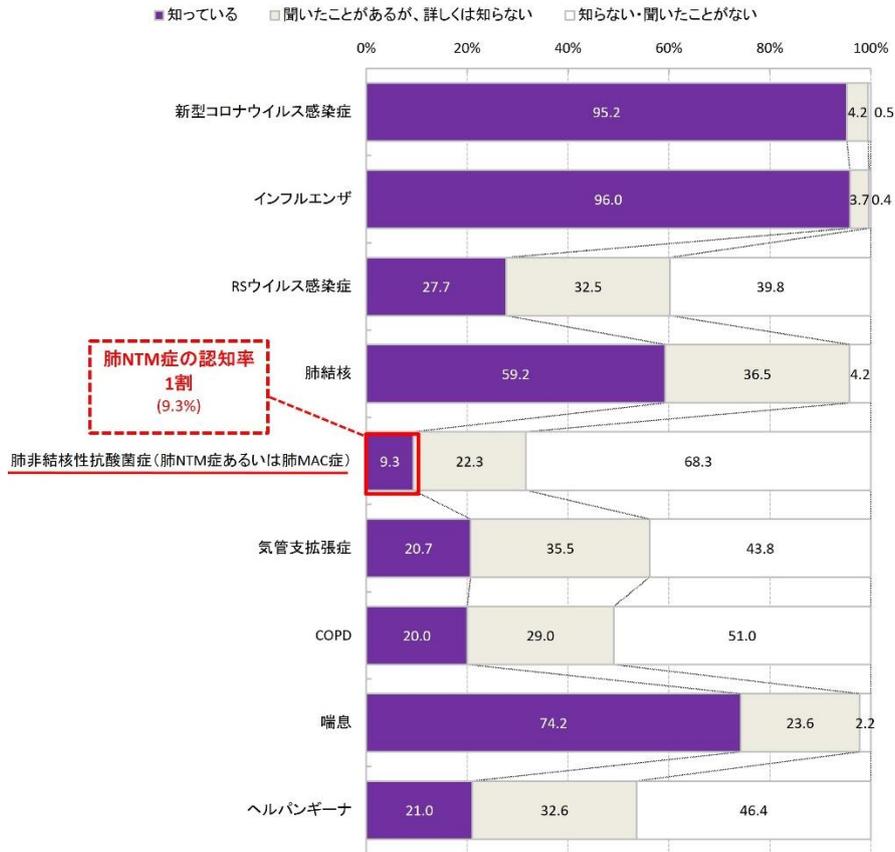
※図の構成比(%)は小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、合計が必ずしも 100%にならない場合があります。

【調査結果 詳細】

- 感染症・呼吸器疾患の中で「肺 NTM 症」を「知っている」が 9.3%、「聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が 22.3%

感染症・呼吸器疾患について、知っているものについて伺ったところ、「新型コロナウイルス感染症」の「知っている」95.2%などに対して、「肺 NTM 症」は「知っている」が 9.3%、「聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が 22.3%と、調査対象の感染症・呼吸器疾患の中でも最も低い認知率であることがわかりました。

Q. 以下の感染症・呼吸器疾患について、あてはまるものを選択してください。(n=1092/複数回答)



●感染症の感染源・原因としてあまり認識されていない「水(水道水など)」(35.3%)

続いて、感染症の感染源・原因となる可能性がある要因として、知っているものについて伺ったところ、認知率が高いものは、「人の飛沫(くしゃみ、咳など)」(96.7%)、続いて「ウイルス」(90.5%)でした。一方、肺NTM症の感染源と考えられている「水(水道水など)」は35.3%にとどまり、人の飛沫やウイルスと比較して認識されている割合が低いという実態が明らかになりました。

Q.感染症の感染源・原因となる可能性があるもので、知っているものをすべて選択してください。(n=1092/複数回答)

順位	項目	%
1位	人の飛沫(くしゃみ、咳など)	96.7%
2位	ウイルス	90.5%
3位	細菌	81.1%
4位	人の排泄物	75.6%
5位	カビ	68.6%
6位	動物	58.5%
7位	昆虫	35.7%
8位	水(水道水など)	35.3%
9位	土(花壇、ガーデニングなど)	31.8%
10位	原虫	27.9%

※「上記にあてはまるものはない」という回答は除く

●感染症予防のために意識して行っていること:7位「水回りの掃除」(27.2%)

感染症予防のために自身で行っている行動については、トップ3は「手洗い」、「マスクの着用」、「うがい」となっており、新型コロナウイルスの流行以降に継続的に周知されている対策については習慣として実行している人が多いことが伺えます。一方、「水回りの掃除」は全体の7位で27.2%という結果となり、多くの人々の意識が“水回り”にまでは及んでいない様子が伺えます。

Q. 感染症予防のためにご自身が意識して行っていることで、あてはまるものをすべて選択してください。(n=1092/複数回答)

順位	項目	%
1位	手洗い	91.7%
2位	マスクの着用	79.8%
3位	うがい	72.9%
4位	手指のアルコール消毒	60.1%
5位	換気	50.3%
6位	3密の回避（密集、密閉、密接）	42.9%
7位	水回りの掃除	27.2%
8位	空気清浄機の使用	26.8%
9位	物の消毒	21.3%

※「上記にあてはまるものはない」という回答は除く

●咳もしくは痰の症状で困っていること:2位「周囲の目」(32.1%)、4位「静かなところへ出かけにくい」(29.0%)

咳もしくは痰の症状があることで困っていることについては、2位に「周囲の目が気になる」(32.1%)、4位「静かなところへ出かけにくい」(29.0%)といった結果となりました。このことから、咳もしくは痰の症状で困っている人は、外出を控える可能性があることが推察されます。

Q. 咳・痰の症状があることでお困りになっていることについて、あてはまるものをすべて選択してください。(n=1092/複数回答)

順位	項目	%
1位	寝つきが悪い（睡眠不足）	37.2%
2位	周囲の目が気になる	32.1%
3位	仕事や家事に影響が出ている（疲れやすい、集中力がつづかない、など）	30.9%
4位	静かなところへ出かけにくい（コンサート、図書館など）	29.0%
5位	公共交通機関を利用しにくい	24.5%
6位	飲食店での食事をしにくい	20.3%
7位	イライラしやすい	19.7%
8位	咳や痰の症状で周囲に驚かれる（過度に心配される）	17.6%
9位	運動などの趣味を楽しむことが難しい	14.7%

※「上記にあてはまるものはない」という回答は除く

●咳や痰の症状があるのに医療機関を未受診の方に聞いたその理由の8割(79.9%)が、「病院に行くほどではないと思っている」

「症状が改善するとは思わない」(8.2%)、「病院や薬局で新型コロナに感染する不安がある」(5.6%)といった声もあり、症状があるにもかかわらず、放置されていることが伺えます。

Q. 咳・痰の治療のために医療機関を受診していないとお答えの方にお聞きします。
医療機関を受診していない理由について、あてはまるものをすべて選択してください。(n=608)

